

所外研修④沖縄県立総合教育センター主催「教育講演会」

所外研修として、5月20日(水)に沖縄県立総合教育センターの「教育講演会」に出かけました。

「学級集団の育成と学力向上ー学力が伸びるクラスの秘密ー」という演題で早稲田大学教育・総合科学学術院 河村茂雄教授の言葉のマジックに引き込まれるように短く感じた90分の講演でした。ルールとリレーションのバランスのとれた学級集団づくりを行うことで、子どもたちの自主的に行動しようとする意欲と学び合う姿勢ができ、学力向上へ高まりが起こるといふ示唆をいただき、これからの検証保育・検証授業の実践にむけてまた一つ大きなヒントをいただくことができました。

【教育講演会の概要】 講師：河村茂雄（早稲田大学 教授）

- 1 河村研究室の取り組み
 - ・児童生徒、学級の状態分析 ・教育実践、学級集団作りの提案
- 2 学力向上を妨げる影響の大きいもの
 - (1) 学習する環境にない (2) 学習意欲が低下している
 - (3) 学習方法がわからない (4) 学習習慣が定着していない
 - (5) 一斉授業についていけない
- 3 理想の学級集団の構造

<必要条件>①規律・行動様式等のルールの確立

②子ども同士の良好で親和的な人間関係(リレーション)

<十分条件>①学級活動に積極的に取り組む意欲と学び合う姿勢、行動する習慣

②自主的に活動しようとする意欲、行動するシステム

→「ルール」と「リレーション」のバランスが取れていると集団は安定する。

- 4 学力向上のためには 学力の育成には、学級集団の状態が左右される

○協働・同僚性・自主・向上性の両方が高い組織体制で学校単位で学級集団を捉える

○タイプ別の対策を校内で検討する。実態に合わせた授業展開。時には大胆な改革も必要である。



写真1 「教育講演会」へ参加

教育研究員の感想 (研修日誌から)

河村先生のお話がずっと頭に入って来て、あっという間に90分が過ぎていきました。

「QU」というアンケートがあることも今日初めて知ることができました。「学級集団を良くしていくことが学力の向上につながる」というお話で学級経営をする上でのたくさんの学びがありました。幼稚園に置き換えてみると、「学級の実態に応じた授業(保育)の展開」「地道にかかわっていくこと」「学校単位(園単位)のチーム体制で臨むこと」「特別支援の子もそうでない子も、全ての子に個別に対応していくこと(一人一人の特性や発達に応じた指導)」など、幼稚園教育とも通じる部分が多くあると感じました。そして、私が研究を進めている、「幼児が友達と共に遊ぶ楽しさを味わう」ためには、子ども同士がのびのびと良さを出し合い、認め合い、お互いを高めていけるような学級(園)の雰囲気を作っていくことも大切なのではないかと感じることができました。「先生方の良い雰囲気を感じ取ることで、子どもたちは良い方向へ向かっていくのでは」という最後の言葉が印象に残りました。今後の研究や保育に生かしていきたいと思います。

(金城さくら)

学力向上と学級経営との関連性など非常に考えさせられる内容でした。今までQUに取り組んだことはありましたが、学級や児童のクラスでの様子を確認する程度でした。教師と子どもたちで作りあげていくルールやリレーションの重要性が印象に残っています。授業もこれに似た要素があると感じました。児童自身が自分の問題としてとらえ作り出すことで、実践していく意欲が湧いてくるのだと思います。あっという間の時間でした。

(大城 厚)

河村先生の講話の中で印象に残ったことは、学力を上げるための安定した学級集団づくりと授業を通じた集団づくりです。学習は個人で、授業は学級集団で行うものであり、ルールとリレーションのバランスのとれた集団を作ることで、子どもたちの意欲を育み、学習する習慣が身についていくということでした。私も昨年の学級づくりで大変悩み、夏期講習を通して、対応は個へ、取り組みは全体ということを選び、小さなことから積み重ね、良い変化が出ました。安定した集団づくりのためには、子ども同士の学び合いの場が必要ということを目指していましたが、私の研究でも、道徳授業から本音で語り合い、学び合う場を設定し、子ども同士が支え合って学び合って高め合えるような関係づくりを築いていきたいと思えます。今日の講演会から、目指す方向が間違っていないことを確信し、これから検証授業に向けて、頑張っていこうと思っています。

(長門照乃)

私は、採用されてからずっとQ-Uテストを取り入れた学校に勤務してきた(与那原町・南城市)ので、ある程度の知識を持っていました。それまで私は、Q-Uテストを学級集団の把握とその結果を踏まえて、対象児童に対してどのような手立てをしたらいいのかを考える方法として活用していました。今回の講演会では、学力向上とQ-Uテストがとても深く関係していることが分かりました。今まで、私の学級は「かたさ型」に分類されてきました。今までは、それで大丈夫と思っていたのですが、それは、学力向上において、とても良くないことを知り、とてもびっくりしました。しかし、私の今までの学級の指導を振り返ってみると、河村先生が言っている通りで、子どもたちにとって悪いことをしてしまったと反省してしまいました。河村先生は、学習意欲が上がれば、学力も向上していくと話していたので、子どもたち一人一人にどんな支援ができるのかを検証授業を計画する上で考えていきたいと思えます。

(具志堅智美)

学力向上を学級集団の育成という視点から見てきた先生の話は、授業の中身を研究している自分にとって、かなり勉強になりました。

確かに、授業は集団で行うので、人間関係が重要になってくると思えます。学級内の人間関係がしっかりしていれば学力が向上するという考えは、逆に言えば、学級内の人間関係をつくっていく場は「授業」であるので、授業の中で生徒同士の関わり合いを意図的に組み込み、人間関係を良いものに築きあげることができると思いました。

「人間関係」－「授業の質」－「学力向上」というサイクルが確立できればと思います。

自分の研究では、見いだす活動や伝え合う活動を主に授業で取り入れていきますが、これも学級集団を満足型へともっていくための一つの手段だと感じました。数学的活動を継続的に行うことでリレーションの確立がなされ、授業の中でのルール(ベル席・始業のあいさつ・勝手な発言をしない)などによる学級のルールが確立し、満足型へと近づいていくと思えます。

講演の内容を検証授業の実践や10月からの学級経営で意識して生徒と関わっていききたいです。

南星中学校では毎年Q-Uテストを実施しているので、自分の学級だけでなく、学年全体、学校全体として共通理解を図るなど、統一した視点で生徒に対応することを推進できたらと思います。

(古屋誠一)